

フクジュソウ	<i>Adonis ramosa</i> Franch.	絶滅危惧Ⅱ類
		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(大塚英樹)
形態の特徴	根茎は太短く、多数の根を出す多年草。茎の高さは花時に10-15cm、果時には25-30cmになる。葉は互生し、3-4回羽状に細裂する。花期は3-5月。茎頂に径4-7cmで黄色～黄金色の花を1-4個つける。萼片の長さは花弁と同長かやや短い。	
生態的特徴	落葉樹帯の林内や林縁に生える。	
分布状況	日本固有の種。北海道、本州に分布する。県内では県北のかなり広い地域及び県南の西部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北及び県南の一部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。

文責:佐藤和良